

信頼し、徹頭徹尾、その意見に従っているが、菊池農會技師は、加藤氏は人も知る人格者であり、吉米地氏は実業家に不似合な精神家であるから、必ず成績をあげるだろうといっている。(3・10・19)

大東岳詰会社全焼 女工二人が死亡

十五日午後三時二十二分、青森市相馬町、大東岳詰会社工場より出火し、火は猛烈な勢いで他の工場および倉庫に延焼し、消防は必死の努力で消火に努めたが、いまだ(午後四時五十分)鎮火しない。原因は同岳詰職工、木村勇太郎(二五)が作業中、たばこの吸いがらを揮発油に落とし、それが付近の揮発油に燃え移ったもので、火災中、鮭(サケ)紅鱈(ベニマス)の岳詰が爆発する音、実に物すごかった。同午後五時鎮火。(3・10・16)

(注) この火事で女工の一人が焼死体で発見されたほか重傷の女工一人が死亡、重軽傷者四人を出した。

中平内が小湊町に

東郡中平内村では、七月二十四日の村会において、御大典記念事業として、中平内村を小湊町と改称することを決議し、県に許可申請中のところ、十四日付、許可となつた。

なり、十月一日より施行することとなつた。

同村は十一大字よりなり、往時より国道宿駅として知られ、戸数八百四十三、総人口五千六百三十八人で、大字小湊は商工業の戸数三百二十三戸で市街をなし、その東端沼館は戸数三十六戸である。(3・9・15)

田子も町制を施行

国民こそぞって祝し奉る御大典を記念に、三戸郡田子村は、十月をもって村名改称、田子町と改まった。往古明応のころ、三戸の支城として、田子弾正光康の居城であったが、光康、津軽に移つてから、代々藩主の隠居所とされた。当時は、秋田へ通ずる必要なる宿駅として、人馬の往来ひんばんであったが、寛永年間、三戸城が

御大典の盛儀が行われる

一 京都電話一賢所の御儀に出御の天皇、皇后兩陛下には、朝儀(もや)いまだ深き五時半というに御起床、御浄身のうえ、常のごとく御直拜の間に出御あらせられ、天神地祇(き)へ御祈念、ねんごろな御礼拝を遊ばされ、次で珍山侍従長以下、側近奉仕者の御祝言をお受けになつて御朝餐(さん)の

盛岡に移されるにおよんで、田子も廢城となり、昔日の繁栄をみる事が出来なくなったが、なお警察分署がおかれ、田子村はか八カ村戸長役場所在地として、付近村落の物資集散の中心をなして三戸町に次ぐ古い町である。

商家軒を並べ、整然たる市街地は、昔日の殷(いん)盛をしのぶにあまりある。今日、町制を施行するは、また故ありというべしである。(3・11・10)

大湊は昔、安渡村

今回、新しく町制を施行された大湊は、旧南部領で安渡村と称せられたが、明治三年、大平、安渡の二カ村を併合して、新たに大湊町を設置した。次で明治十二年三月、大湊町をさいて大平村をおき、同二十二年、町制施行の際、

大平、大湊、城ヶ沢の三カ村合わせて大湊村となつた。しかるに、その後、要港部の拡張と大湊興業会社の事業進展につれ、村の内容充実し、町制を施行すべしとの声が起こつていたのが、いよいよ、今回、御大典を機に実現せらるるに至つたのである。(3・11・10)

全国初の女性アイスホッケーチーム

八高女 南部乙女の自慢ふえる

天下一と折り紙をつけられた天然リンクをかかえた桜ヶ岡の八戸高等女学校では、八戸スケート協会会長である三田校長および職員の手先で、例年、生徒一同にウィンタースポーツとして、スケートを勧めているが、西の弘前高女学校のスキー競技に比して、あっぱれ女子ウィンタースポーツ王国を築こうというので、新たに勇壮なる競技として盛んにスケートマンを喜

ばしているホッケーを採用し、道具一そろいを注文中であったが、二十五日到着した。今後は協会リンクで協会選手そつちのけの猛練習を開始するということであるが、女子ホッケー競技は、全国をたすねてもなく、同校をもって嚆(こう)矢とする。これで、南部乙女の自慢がまた一つふえた。(3・12・26)

ノルウェーの選手が大鰐で講習会

二十二日午後六時三十一分、世界的スキー選手ノルウェー国ヘルセット中尉、スネルスルード、コルテルドの三氏は、吉村知事らと同車し、多数スキーヤー並びに地元大鰐町民および大鰐、蔵館両校児童らに迎えられ、大鰐駅に到着、三氏は大鰐ホテルに入り、かつて秩父宮殿下が宿泊された三階

後、兩陛下には午前八時半、御座所に出御、学問所におなりのうえ、天皇陛下には山科家言伯の御衣紋、甘露寺、黒田兩侍従長御介添えて、御東帯のいとも神々しき白絹の御袍(ほう)に、皇后陛下には、冷泉伯夫人の御衣紋、津軽女官が奉仕して、同じく白絹の御五衣、御唐衣の御装(もすそ)

(3・11・11)